

## 中学校 社会科「公民的分野」の事例

## 1. 単元名 国際平和と福祉の増進

## 2. 単元目標 領土問題を通して国家主権を理解する

## 3. 単元の構想

## (1) 教材について

本単元は、領土問題を通して国家主権について学習することをねらいとしている。本単元で追究していく国家主権については様々な視点から研究が行われており多様なとらえ方があるが、本単元では、国家主権とは、対内的には国内統治権を示し、自国の領域に対して支配する権利を示す。また対外的には、国家の独立性を示し、外国から干渉を受けず、また他国の権力のもとになく独立している状態であるとしている。

領土、領域という概念は、他国との関係を明確にする考えのひとつであるが、本単元で取り上げる竹島問題の平和的解決は現状のところ困難である。しかし、国土の一部を他国に占拠されたままの状態が続くことは、国際社会における日本の主権国家としての尊厳にかかわる。つまりこの問題は、経済資源以上に国民の安全と権利を守るという政府の役割が問われる問題であると言える。

この問題を受け入れることは、国家が主権を放棄したことになる。主権を放棄することは、国民を他国から守れなくなることを意味する。だからこそ、竹島に関する問題を考えていくことは、日本の国家としてのあり方を考えるために有意義な単元である。

## (2) 指導について

本単元のねらいは、領土問題そのものの理解ではなく、領土問題を通して国際社会における国家主権の意味やあり方、国家の役割について追究することをねらいとする。本単元までに生徒は、地理的分野、歴史的分野の学習において、国家及び他国との関係において国の主権について学習している。本単元においては、その学習の成果としての見方・考え方をもとにして、領土というフィルターを通して、国家の果たすべき役割について、段階的に知識を膨らませ、深化させることで、より客観性を高めることで、「実践的思考力・判断力」を育成したいと考える。

本単元では、最終的に領土問題を通して生徒が構築した国家の主権に対する知識を用いて、他の国際社会の課題を改めて考えることで、さらに国家主権に対する知識をより深みのあるものとしたい。

4. 単元構造図

単元 国際平和と福祉の増進 単元目標 領土問題を通して、国家主権を理解する。

単元を貫く問い 国際社会における国家主権とは何か

【総合的知識】

現代の社会は解決が困難であったり、解決の糸口が見えなかったりする問題が多く存在する。領土に関する問題や経済圏域の問題も一例である。この問題を問い続ける時に国家主権という視点は欠かせない。国家は、自国の「国益」の追求をめざし政策を決定するが、その際、主権は国民にあることを踏まえ、国家主権の行使においては民意を反映させることが必要である。ただし、グローバル化した世界情勢を十分考慮し、他国との関係も考えながら国家主権を行使していくも必要である。

問い：なぜ、イギリスはEU 離脱を選択したのか

実践的思考力・判断力

【価値的知識】

普遍的、不可侵的な人権である国民一人ひとりの自由権や平等権が他国等によって侵害される恐れが生じた時、国家は国家主権を行使して領土と国民を守る。

問い：なぜ看過できないのか。日本は何を失うことになるのか

創造的思考力・判断力

【価値的知識】

竹島問題は日韓双方が自国の国益を追求するだけでは解決が困難である。しかし、竹島に関しては日本固有の領土である根拠があり、現状のまま看過することはできない。

創造的思考力・判断力

(解決の視点) 竹島問題はいかに解決すべきか。日韓が自国の「国益」を追求すべきか。日韓双方の「域内益」を追求すべきか。

解決の方法

日本国憲法の精神  
他国の領土問題の状況

【概念的知識】

竹島問題は、国家主権にかかわる問題であり、国家主権が侵されている状態にある。国家主権の回復を求めなければならない。

抽象的思考力・判断力

【個別的知識】

領土問題  
① 竹島問題  
② 北方領土問題  
尖閣諸島をめぐる情勢

【個別的知識】

竹島問題の現状  
・ 歴史的に日本の領土  
・ 韓国による不法占拠  
・ 島根県の取組と課題  
・ 政府の取組  
・ 北方領土問題との異同

【個別的知識】

・ 国連の仕組みと役割

【個別的知識】

・ 領土問題をめぐる日韓双方の主張  
・ 歴史の捉え方の違い

【概念的知識】

国家主権が確立している状態とは、領域が画定されていて、その範囲では政治的・経済的な独立が保たれ、他国から干渉されない状態等にあることをいう。

【個別的知識】

国際社会における国家(主権国家)領域と日本の領域

【個別的知識】

国際社会のルールと外交

具体的思考力・判断力

歴史的分野の学習における「国家主権」の概念  
・ 日米修好通商条約における不平等条約  
・ 近代日本における領土の画定  
・ サンフランシスコ平和条約による主権回復  
・ 沖縄返還と今日の沖縄

地理的分野の学習における「国家主権」の概念  
・ 世界の独立国家と国境  
・ 日本の領土とEEZに関する問題  
・ 地球温暖化による国家危機の問題

## 5. 評価規準と単元の指導計画

### (1) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>領土問題を通して、国家主権を理解できる。</li> <li>領土問題に関する地図や年表、資料から問題を読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>領土問題を通して、国家主権とは何か、意見交換をして、自分の考えを吟味し、思考を深めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>領土問題を通して、今日的な国際社会の課題であるという認識のもと学習に取り組み、既習事項や生活体験の知識を使いながら、課題を解決する話し合いができる。</li> </ul>

### (2) 指導計画

	学習活動	獲得する知識
1	<p>○主権国家とはどのような国家か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内政不干渉の原則と主権平等の原則をもつ国のこと、主権の及ぶ範囲は、領域であることを知る。</li> <li>どこに領土問題が発生しているのか、領土問題は、どこの国と争っているのか調べる。</li> <li>領土問題とは何の問題なのか、考える。</li> </ul> <p>国家主権を侵している。自国の海洋資源が自由に開発できない。</p>	<p>■個別的知識</p> <p>主権 国家主権 領域 経済水域 国際法 領土に関する問題 国際司法裁判所</p>
2	<p>○国際連合は、どのように国家の主権を大切にして国際紛争を解決しているのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際連合は、救済する国の主権をどのようにして守っているのか調べる。</li> </ul> <p>→相手国との話し合いを行い、解決の方向性を決め、内政不干渉の原則を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際連合は、どのような仕事をしているのか、事例を挙げて考える。</li> </ul> <p>国連インド、パキスタン軍事監視団 国連パレスチナ難民救済事業機関 ガーナモデル</p>	<p>■個別的知識</p> <p>国際連合 総会 安全保障理事会 専門機関 拒否権 平和維持活動</p>
	<p>○なぜヨーロッパはEUを創ったのか？</p> <p>→各々に国益を考えるより、結果的に域内益を考えた方が、大きな利益につながる。</p> <p>→軍事安全保障の優位性</p>	<p>■個別的知識</p> <p>地域主義 EU ユーロ</p> <p>○概念的知識</p> <p>国家主権が保たれている状態とは、</p>

3	<p>→共通通貨の優位性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロを導入するとどのようなメリットが加盟国にはあるか考える。</li> </ul> <p>小さい国が多いヨーロッパは、国内雇用も少なく、消費市場も狭い。その中で価格競争はデフレを招きやすい。</p>	<p>領域が確保されていて、その範囲内で政治的経済的な独立が保たれ、他国から干渉されない状態のこと。</p>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○竹島に関する問題とはどのような問題だろうか？</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>①竹島の位置、地形等を確認する。</li> <li>②歴史的事実を確認する。</li> <li>③島根県の取組と課題について調べる。</li> <li>④日本政府の取組について知る。</li> <li>⑤北方領土問題との違いを知る。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の主権が侵されていることによりおこっている問題は何か？</li> </ul>	<p><b>■個別的知識</b></p> <p>竹島やその周辺 1 2 裡には日本が近づくことができない。</p> <p>漁業が自由にできない。</p> <p>海洋資源の権利を行使できない。</p> <p><b>○概念的知識</b></p> <p>竹島問題は主権にかかわる問題であり、日本は国家主権を侵害されている状態にある。国家主権の回復を求めなければならない。</p>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">○どのように竹島に関する問題を解決すべきか？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領土問題の解決方法について知る。</li> <li>・日本の基本的な立場を理解する。</li> <li>・他国の領土問題の解決の方法について知る。</li> </ul>	<p><b>■個別的知識</b></p> <p>平和的解決をめざす</p> <p>領土問題の解決には武力行使や戦争になった例もある</p> <p>買収や経済的な解決をめざす例もある。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日韓が自国の「国益」を追求すべきか、日韓双方の「域内益」を追求すべきかについて考える。</li> </ul>	<p><b>◎価値的知識</b></p> <p>竹島問題は日韓双方が自国の国益を追求するだけでは解決が困難である。しかし、竹島に関しては日本固有の領土である根拠があり、現状のまま看過することはできない。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、竹島は不法に占拠されている。日本がこの問題を看過できないのはなぜか？</li> </ul> <p>→竹島は韓国が不法に占拠し、日本の領土でありながら政治や経済の面で日本の力が及ばない状態になっているから。</p> <p>→歴史的にみても、資料が多く残っており、日本の領土である資料をいくつか知ったから。</p>	<p><b>◎価値的知識</b></p> <p>普遍的、不可侵的な人権である国民一人ひとりの自由権や平等権が他国等によって侵害される恐れが生じた時、国家は国家主権を行使して領土と国民を守る。</p>


8	<p>○イギリスはなぜ EU 離脱を選択したのか。</p> <p>・グループごとに意見をまとめて、プレゼンテーションをする。</p>	<p><b>☆総合的知識</b></p> <p>国家は、自国の「国益」の追求を目指す。その際、主権は国民にあることを踏まえ、国家主権の行使においては民意を反映させることが大切である。</p> <p>国家には、自国の「国益」と「域内益」のどちらをより重視するか判断するか判断することが求められる。その際、国民が十分に両者を吟味できるよう、可能な限り情報を公開することが必要である。</p>
---	--	---

## 6. 本時の流れ

(1) 本時のねらい

○ 竹島問題を通して、国家主権の本質を考えることで理解を深めることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	教師の働きかけ
導入	<p>1. 写真を見て、気づいたことを発表する。</p>  <p>・日本の領土に韓国人が住んでいる。日本人も住むことができないとおかしい。</p> <p>・ヘリポートなど日本の許可なしに、どんどん建設され、抗議しているのにおかしい。</p> <p>2. 前時までの概念を思い出す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>竹島問題は日韓双方が自国の国益を追求するだけでは解決が困難である。しかし、竹島に関しては日本固有の領土である根拠があり、現状のまま看過することはできない。</p> </div>	<p>■1枚の写真を見て、批判的思考が働くように声かけをする。</p> <p>■日本の主権が侵害されていることが理解できるように、指導や助言を行う。</p> <p>■話し合いの論点を示しながら、学習の経過を視覚的に示しておく。</p> <p>■既習概念（概念的知識）を思い起こさせ、国家主権にかかわる問題であるという認識に立たせる。</p>

展 開	<p>3. 竹島問題をこのまま未解決にしておくと、日本は何を失うことになるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業をする権利が狭くなるから。</li> <li>・ 領海や経済水域を失うことになる。</li> <li>・ これを許すと、領土をどんどん奪われていく恐れがある。</li> <li>・ もともと日本の領土なので受け入れるわけではない。歴史認識より韓国と日本の両国の利益を考える機関を設置する。</li> <li>・ 国民一人ひとりを他国の侵略から守れないことを証明してしまう。</li> </ul> <p>①グループで意見交換をする。 漁業権，地下資源，E E Z，国民の権利</p> <p>②発表した意見について全体討議をする。 →グループで発表したキーワードについて，自分の考えを吟味し発表する。</p> <p>③国の役割について考える。 →国民を守ること。 政府の役割は基本的人権を守ること。</p>	<p>■生徒が考えやすいように，以下のような手立てをしておく。</p> <p>①ポートフォリオからこれまでの学習を振り返るよう伝える。</p> <p>②単元で学習してきたことや関連性のある教科書のページを掲示しておき，適宜参考にするよう伝える。</p> <p>③これまでの知識の変化について掲示しておく。</p> <p>【キーワードカード】</p> <table border="1" data-bbox="911 712 1302 931"> <tr> <td>自由権</td> <td>平等権</td> </tr> <tr> <td>法 律</td> <td>人 権</td> </tr> <tr> <td>実効支配</td> <td>領 土</td> </tr> <tr> <td>国 民</td> <td></td> </tr> </table> <p>■個人で考えたあと，グループで意見交換を行う。その際，グループで出た意見をメモしておくよう補足する。</p> <p>■経済的な側面に偏るようであれば，領土問題学習に参加した生徒に意見を求め，領土返還を求めて活動する人たちの声を紹介することで，経済的な面以外にも注目するよう促す。</p> <p>■生徒間で意見交換できるようにコーディネートする。</p> <p>■必要であれば，批判的思考が働くように声かけを行う。</p>	自由権	平等権	法 律	人 権	実効支配	領 土	国 民	
自由権	平等権									
法 律	人 権									
実効支配	領 土									
国 民										
ま と め	<p>4. 国家主権についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普遍的，不可侵的な人権である国民一人ひとりの自由権や平等権が他国等によって侵害される恐れが生じた時，国家は国家主権を行使して領土と国民を守る。</li> </ul>	<p>■生徒の意見を黒板で整理しまとめる形で，概念を形成しやすくする。</p> <p>■単元を通して，知識が深まってきたことを可視化する。</p>								

(3) 思考力・判断力の評価計画

学習活動における具体的な評価基準と評価	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
「国家主権の行使」というという価値的知識を獲得できる。 ・ワークシート ・発言	国家間の対立の克服を試みるには、領土、国家主権、主権の相互尊重の確立が必要である根拠をもち、解決に見通しをもって判断できる。	国家間の対立の克服を試みるには、領土、国家主権、主権の相互尊重の確立が必要である根拠をもち、判断できる。	根拠をもって判断できるように、資料を提示したり、グループでのかかわりがもてるよう支援する。

国家権力とは、対内的には国内統治権を示し、自国の領土に対して支配する権利を示す。また対外的には、国家の独立性を示し、外国から干渉を受けず、他国の権力のもとになく独立している状態。